令和６年度第３回　田原本町総合教育会議　会議録

日　時　令和６年９月 19 日（木）午後３時３分～午後４時 21 分
場　所　田原本役場　３０１・３０２会議室
出席者　田原本町長　高江啓史
　　教育長職務代理者　眞田和則
　　教育委員　岡本春江　桝井歌世
　　教育長　山田忠志
事務局　町長公室長　中辻勇
　　教育部長　森淳一
　　教育総務課　課長　森川理恵
　　課付課長　安倍仁
　　指導主事　金澤一裕　福辻智実　中山靖雄
　　課長補佐　奥谷知日朗
　　文化財保存課　課長　吉村浩至
　　図書館　館長　澤田糸美
欠席者　山田育弘
傍聴者　１名
議　題　（１）特別支援教育について
　　（２）町内小中学校児童生徒の学力向上について
　　（３）田原本町教育大綱について

町長
　本年度第３回目の総合教育会議を開催する。
　本日は、前回の続きの特別支援教育、また例年１月の総合教育会議でお伝えしている学力テストの結果を踏まえた学力向上を含む対応、そして教育大綱の今後の進め方についてご意見をいただきたい。

○議題３　田原本町教育大綱について

町長
　次第と順が逆になるが、まずは教育大綱の取り組み状況についてご説明いただきたい。

（事務局説明）

町長
　事務局で教育大綱の素案を作ってもらっているが、作っていくプロセスの中で大切なことは、こども達も先生方も、この大綱が自分たちのものだと認識してもらい、思いを共にして学校現場で頑張ってもらえることだと思う。トップダウンで行くのは避けたい。
　来週から私が小中全７校を巡って、先生方に直接私の思いを伝えたい。全ての先生方一同に会して機会が作れるかどうかは別として、校長先生ではなくて一般教諭の方々からも

思いをうかがい、ご意見を教育大綱の素案に落とし込むことができればと思っている。

併せて、事務局からも説明があった通り、当事者であるこども達の意見を大事にしたい。できれば小学校は６年生、中学校は３年生に、田原本を今後どんなまちになったらいいかなど、意見を聞きたいと考えている。また、できればその場にも私も出席するかビデオメッセージという形にもなるかもしれないが、いずれにしても当事者であるこども達と先生方に自分たちの大綱であると認識を持っていただけるよう進めていきたい。

眞田委員

町長自らがアクションを起こすのは画期的。こども達にも教員にも直接話す場があることは、教員の立場からしたら相当なインパクトがあるだろう。教員の気持ちも高まるのではないか。

町長

厳しい言葉をいただくかもしれない。具体的にこういった教育をしたいという意見があるならいただきたい。教育大綱は先生方が思いを共にしてもらわないと意味がない。もしかしたら行政（役場）に対していいイメージがないかもしれないが、それでは前を向いて進まない。

眞田委員

私の経験上、町長が直接学校に行って話をする、聞くというのはきいたことがないし、すごいインパクトがある。それを学校側も受け入れた。教育への意欲が高まることが期待される。町長が学校に行くことに意味がある。

町長

こども達の思いや先生方のご意見を踏まえ、教育大綱の素案をまたこの場でお示しできるようにしていけたらと思っている。

〇議題１　特別支援教育について

町長

議題１に戻り、前回議論の途中となった特別支援教育について。本年度試験的に導入している教育ソフトについてご説明いただきたい。

（事務局説明）

町長

教育ソフトを導入することにより、経過も見られるし、指導の根拠や見直しのきっかけにもなるということだった。

支援の目標、合理的配慮などあるが、これは誰がどのように作るのか。

指導主事

現在は、特別支援学級の児童であればその担任、そして交流学級の担任が中心となってアセスメントのチェックを入れていく。チェック項目は多い。

町長

合理的配慮のあり方、支援の目標、評価目的別の目標指導内容といったところは、当然教育のプロである先生が作られるのだろうが、ここに保護者や当事者の声は入らないのか。

指導主事

そこについては今後検討しなければならないと考えている。方法としては、まず先生が作ったものを保護者に提示して整合性を図る方法と、アセスメントチェックの段階で保護者も入って指導計画を考えていく方法がある。どちらにも一長一短がある。対象のこどもが学校の姿と家での姿が変わることが往々にしてあり、学校と家庭での様子が食い違うことがあるため、どちらに歩み寄るかでアセスメント内容が変わる。学校の場での指導であるので、学校の見立てでアセスメントを保護者に提示する方法を考えているが、検討必要。

町長

これに限らず、特別支援教育でよく議論になるのが、保護者の思いと学校の思いのずれ。ずれると納得感が得られなくなる。十分にご検討いただかないといけないところだと思う。

岡本委員

学校の先生が作ったアセスメントがずれることはよくある。一緒に意見を言って作るのでどうか。学校でできることが家ではできない、逆のこともあるだろう。可能であれば保護者と一緒に作り上げた方が、保護者としても一方的ではないと思ってもらえるのでは。

町長

内容もそうだがプロセスも大切で、納得感が変わってくる。それは事務局も十分わかっていただいているので、ご検討いただきたい。教育ソフトは、一番はこどものため。保護者の納得感も大事であるので、運用については十分ご留意いただきたい。

○議題２　町内小中学校児童生徒の学力向上について

町長

学力テストの結果、そしてそれをふまえた今後の方向性について、事務局からお願いしたい。

（事務局説明）

町長

特別支援、不登校、いじめ、学力向上へのフォローをしっかりとやっていかなきゃいけないと私も常日頃から申し上げているが、この場合の学力向上はもう少し広い意味。今の説明の内容は、あくまでこの学力テストから見えてくる課題に対するアプローチの説明である。小・中学校共通として思考判断、表現力に課題があり、読書の施策を充実すべきではないかということであった。学力向上と一言で言っても、これが全てではないことをご認識いただきたい。

佐賀市立東与賀中学校というところで、学び合いの授業が非常に興味深い教育課程をされ、その結果、不登校などの問題も減ったという話も聞いた。学校に居場所ができることによって様々な課題解決に資する、ひいては学力の向上に資する取組みである。

学び合いというのも非常に抽象的で、具体的にどうしていくかは今の時点ではご容赦いただきたい。

眞田委員

調査対象は小学６年と中学３年ということだが、不登校の子は受けていないだろう。も

しその子たちが受けていたら数字も変わるだろうから、実際が気になるところである。中学校は不登校が多いので、田原本中、北中合わせてかなりの量になるではないか。

指導主事

調査は全児童生徒対象だが、実施日に欠席していたら受けられていない。

眞田委員

国語力は、小学校を見ても全国・県と比較しても低い。話すこと・読むことの基礎的なところが低いのが気になる。読書の習慣がなく、スマホやタブレットを触っている時間が長い。この田原本町のこどもの実態を見るとこれでいいのかというのが率直な思い。うまく言えないが、どこから手を付けたものだろうか。

岡本委員

国語力のことで、高校生からお手紙を貰ったことがあったが、今のこどもはこういう文章を書くのかと感じた。動画配信をずっと見ているからか、しゃべり言葉がそのまま文章になっていた。小さい頃から正しい文章を読む、書く練習がプログラムに入っていたらと思う。正しい文章を書く練習は、特に今の子は欠けていないだろうか。

眞田委員

新聞は、各学校に置いている。どう活用しているかが問題。ただ置いてあることになっていないか。

桝井委員

新聞を読む時間を個人で作るのは難しい。高学年なら読みたいと思う子がいるかもしれないが、先生が新聞を使う授業に取り組まないと無理だろう。

町長

各校に配架してある新聞は、どのように運用しているのか。

教育部長

基本的には各学校の図書室に置いてある。昨年度は授業に活用することが多いときいているが、実際に新聞を広げて見る子は確かに少ないように思う。

眞田委員

新聞を切り抜いたりして授業に新聞を取り入れることはあるが、これは先生が意識的に活用してもらわないといけない。「教育に新聞を」といってNIEという活動もあるが、そこまでいかなくても、授業力向上やこどもの興味や機微の意味でも先生方にもっと活用の余地があると思う。

学校によっては、朝の10分でも読書をやるという朝読に取組んでおられるところもあるときいている。全ての学校で今はやっているだろうか。

教育総務課長

一部やっている校がある。

眞田委員

朝の10分15分、静かに読む朝読をやっている学校は多い。それによって活字に慣れるし、自分で選んだ本を読み、スムーズに一日が始まる。また本の楽しさが分かれば図書室に行って本を借りるという広がりがある。このような地道な活動をしてはどうか。

桝井委員

高校では読書をしている学校が多い。静かにホームルームを迎えられるという。読書の時間を取ることはマイナスではない。小さなこども達がいる現場でどれだけできるか、先生の負担になる可能性もあるが、検討してもらいたい。

最近、教職現場でロイロノートを使用する機会があり、教えてもらいながら活用したところ、子どもたちの反応も良く効果を感じる、という機会があった。本町での使用状況はどうか。

指導主事

昨年度、学ぶ力育成実践事業を川西町が受け、ICT 活用をテーマにして google とロイロノートの活用を積極的に進められていた。本町の先生方に更にスキルアップしてもらいたく本年度の研修に取り入れた。

桝井委員

本町でも使用しているため、私自身も教育現場で電子黒板やロイロノートを使い始めている。今の子はデジタルでの提出なども円滑にできるし、目新しいことについていくことができる。普通の黒板も電子黒板も必要ではあるが、ロイロノートでの提出などに意欲的に取り組むのではないか。

ビブリオバトルをテレビで観ることがあったが、とても面白かった。田原本の学校でも実践しているのか。

図書館長

北中学校でやっているときいている。学校の図書担当の先生が熱心で、昨年度実践されていた。

桝井委員

短く本を紹介していた。ああいった、自ら話す力というのが問われているのではないか。

今の子は質問に対して「大丈夫」など曖昧な言葉や中途半端な返事をすることがある。自分を表現しきれていないのか、自分に自信がない子が多いのだろうか。冒頭にもあった町長が直接こども達の生の声を聞くことは、これにも結び付くことがあるかもしれない。

町長

昔の子はできていたのかだとか私ができているのかはさておき、「すごい」「大丈夫」など、何か感想を表現しきれていないようにも思う。国語力が低い結果もそうかもしれない。事実として数字が出ているので、方法論でどうしていけばよいのか、今のご意見や現場の先生方の声を踏まえ実践していければと思う。

これが全てではないし、あくまでも学力調査の結果から出てきた目下の対応案である。学力向上については、引き続き総合教育会議の中でも議論できればと思うのでお力添えをいただきたい。

眞田委員

学力向上というと、上から目線で、読書感想文なども嫌々やらされている感がある。例えば北中対田中のビブリオバトルなど楽しみながらやれたらと思う。低学年なら朝の読み聞かせ、高学年になったら朝読書などを長い目で取り組んで、田原本のこども達が読書好

き、本好きになれば、自然に国語力がつくのではないか。ビブリオバトルは私も観て面白かった。自分の好きな本をみんなにアピールして、賛同を得る。あの子はなぜこの本を選んだのかという意外性と熱意を感じて、その本を読んでみようなど、お互いの良さを認め合う。楽しみを入れながら読書力を喚起するにはいいことだと思う。こういった地道な取り組みを広げていくしかないのでは。

あれこれ言っても、結局は現場で教える先生の指導力と授業を教える力である。田原本の子は県平均よりも時間的に長く勉強しているのに、学力は伸びていない。先生たちが興味を引くような授業をしたり効果的な宿題を出したりしたら、もっと学力が上がってもおかしくない。変な表現になるが、指導力や情熱が問われる。こういった結果を現場の先生方が他と比較して、どこが遅れているのかなど授業研究して授業力を高めてもらいたい。田原本の先生はあまり授業研究しないともきく。やっぱり教師の一番の力は授業。授業の力がある先生はこどもからも保護者からも信頼される。授業力を高める取り組みがあればと思う。

町長

先生方はご尽力いただいている中ではあるが、学力という点では結果が伴っていないところもあるかもしれない。こども達が読書の取組みを進めていく中で学力向上のためとは言わないだろうし、ご意見をいただいたようにいかに関心を持って、楽しんでもらえるかが大事だと思うので、いかに工夫を促せるか、現場の教員の方にご尽力いただけるか、人的・物的支援を今後もしていかなければならない。

教育長

先ほどの朝読について、例えばあらすじや感想文を書かなければいけないとなると、こどもは嫌になる。1988 年に千葉県の高等学校から始まった時の朝読の４原則が、みんなで・毎日・好きな本で・読むだけでいい、だった。協働性、継続性、選書力そして読むだけという目的。多くの学校で時間内は音楽を流すなど取り入れていた朝読の時間だが、しばらくしてカリキュラム編成で外国語活動が入って１コマ２コマ増やさねばならず、モジュールタイムとして１週間に１単位とするときに朝読の時間が削られた。また時流として百マス計算や漢字の勉強など基礎基本を重視する動きが広がり、その時間のため朝読がなくなった流れもある。ただ、継続した読書で培われる力は軽視できない。読書の力は読解力につながるものである。新聞記事で、全国 16 歳以上を対象にした調査によれば、２か月で１冊も読まない人が６割を超えるということだった。先ほどあったようにショート動画やＳＮＳで流れてくる文脈の無い短文等の画像に慣れてしまって、いわゆる長文離れになっている。きちっととした文は書けず単語の羅列になってしまうし、話し言葉がそのまま書き言葉に置き換わってしまう。授業でどのように落とし込んで課題を解決していくのかが大切だと思う。

学校の先生方もこういった流れの中でがんばっていることを紹介する。ある学校ではモジュールタイムのために読書がとられても、国語の基本練習のため読書を取り入れているところもある。文章を深く読み取って考察して考えを書いった、読むことから書くことにつなげている学校もある。中学校では、協働的な生徒の学びということで対話的に物事を

調べてまとめていくのもある。自分や友達の考えや意見、感想を大事にするために、研修を進めた結果、自由闊達な意見が言えて、友達の考えを自分の言葉として再発信していくことが大事だと行きついたという報告もある。

日々の基本的なことが大事でもあるし、町長もおっしゃるように、だからどんな田原本の学びがある学校づくりをしていくのか、これからも教育委員会はしっかりと目を光らせていきたいと感じる。

町長

様々なご意見ありがとうございました。議題は以上となる。また２か月後あたり、こども達や先生の思いを含めて教育大綱の素案を示せればと思う。長い時間ありがとうございました。

午後４時21分　終了